啖變戏鄉



目 次

*	理事長 巻頭言 「一石三鳥をやってみましょう」
	栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男
*	1. 第18回東関東バンド・セッション2012 及び
	第13回東関東選抜吹奏楽大会 報告2
	平成24年6月9日(土)・10日(日)実施
	主催 東関東吹奏楽連盟 主管 茨城県吹奏楽連盟
	会場のひたちなか市文化会館の大ホール
	第18回東関東バンド・セッション2012
	東関東吹奏楽研修会に参加しての感想
	栃木県立今市高等学校 3年 福井 響子
	栃木県立真岡女子高等学校 3年 湧井 綾香
	第13回東関東選抜吹奏楽大会に参加しての感想
	那須塩原市立大山小学校吹奏楽部 部長 八木沢 彩
	宇都宮市立清原中学校 (3年大根田、黒崎、米川)
*	2. 高校野球に華を添える応援演奏について4
	「甲子園の応援に行って」
	作新学院高等学校吹奏楽部 副部長・トレーナー 3年 金子 早織
*	3. コンクール
	「東関東吹奏楽コンクールに参加させていただいて」
	栃木県立大田原高等学校 吹奏楽部顧問 遠藤佐知子
	「平成24年度 栃木県吹奏楽コンクール」
	栃木県立石橋高等学校 部長 3年 武石尚子
*	編集後記
	栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長 三橋 英之(作新学院高校)

WARAMANA COS WARAMANAMA



「一石三鳥をやってみましょう」

栃木県吹奏楽連盟理事長 石塚 武男

吹奏楽コンクールが終わってホッとしている部員や先生方が大方ではないかと思います。

中学校、高校の部活動にとっては二年生を中心として、これからの部活動の運営や練習方法計画に迷っていることと思います。また、先生方にとっては入試対策や進学、就職指導に追われていることでしょう。そんな中、どうしたら部員達が仲良く自発的に練習に励んでいけるか、どうしたら部員が辞めずに続けていけるか、皆で悩んでいく必要があります。

これから来年の3月までにレベルアップするには、次のような一石三鳥の実例を紹介してみます。 それは千葉県の柏高校吹奏楽部と習志野高校が実現していることです。

高校生は中学校や小学校に、中学生は小学校に訪問合同演奏会と称して、後輩と一緒に練習し、教えることなのです。同じ易しい曲をある程度お互いに別々に練習しておき(先輩たちはある程度の練習では済まされない)、その曲を合同で通すだけでなく、細かく区切って同じところを何度も何度も一緒に吹くことで、後輩に耳で覚えさせることをするそうです。先輩達はリーダーシップが取れるように練習し、見本となれるように自覚させ、練習に励むことが必要であると気付かせることです。

自校の学区内の中学校、小学校に積極的に訪問できるよう、お互いの先生が連絡を密にして実現できるよう努力する必要があります。子供達は先輩後輩の関係がうまく出来上がること間違いないと思います。

このことによって、お互いに得ることが三つあります。

一つ目は、お互いが緊張して練習をしたのですから、うまくなること間違いなし。——音楽の 上達。

二つ目は、先輩がいる学校へ入って吹奏楽部に入部したい。――部員の確保。

三つ目は、地域全体が吹奏楽に関心を持つようになり、大人の理解が良くなる。学校間の切磋 琢磨によりレベルアップする。——上達の秘訣。

この事から、柏高校、習志野高校の基本はここにあるのだと、二人の指導者の心意気の話を聞き入った次第です。お金は余りかからないし、地元の信頼ができ、先生同士の交流は良好となり、 先輩生徒の誇りある笑顔が浮かんでくるような気がします。是非一度でもいいですから実現して みましょう。何回か継続してやれればこの上なしです。面倒なことですが、苦労したことは必ず 良き結果が表れてくると確信します。



第18回東関東バンド・セッション2012 及び 第13回東関東選抜吹奏楽大会 報告

平成24年6月9日(土)・10日(日) 主催 東関東吹奏楽連盟 主管 茨城県吹奏楽連盟 会場 ひたちなか市文化会館 大ホール

「第13回東関東選抜吹奏楽大会に参加して」

那須塩原市立大山小学校吹奏楽部 部長 八木沢 彩

今年の6月、ひたちなか市文化会館で行われた「東関東選抜吹奏楽大会」に参加させていただく ことができました。大きなステージで演奏できる機会をいただけたことは、とてもありがたく、感 謝しています。これまでに頑張ってくれた先輩方のおかげでもあるので、その思いをむだにしない よう、少しでもいい演奏ができるように頑張りました。

この大会では、4月に入部した4年生も一緒にステージに立ちました。4年生にとっては初めての大会なので心配しましたが、一人一人が力を出し切って頑張れたと思います。

他の団体の演奏はとても素晴らしく、堂々としていて、感動しました。自分たちも見習いたいと 思うところがたくさんあり、とても勉強になりました。

この大会に参加して学んだことを、これからの活動に生かしていきたいと思います。



「第13回東関東選抜吹奏楽大会に参加して」

宇都宮市立清原中学校 (3年大根田、黒崎、米川)

東関東バンドセッションは私達にとって県外での初ステージでした。観客の皆さん楽しんでいただけるようMCにも力を入れました。また4月に入部したばかりの1年生にとっては初ステージ!74名でのステージに私達も緊張しましたが、楽しく笑顔で演奏することが出来ました。正直、コンクール曲との両立は大変でしたが、まさかのバンドジャーナル賞受賞!!たくさん練習したかいがありました。また県外の素晴らしい学校の演奏もたくさん聴くことが出来ました。楽しくもあ

り、勉強にもなる、思い出に残る1日となりました。

最後に、この大会に出場させていただき、ありがとうございました。清原中学校吹奏楽部は、これからももっと音楽を楽しんでいきたいと思います。



「平成24年度東関東高等学校選抜バンドに参加して」

栃木県立今市高等学校 3年 福井 響子

今回、私は大変有意義な講習会に参加させて頂き、貴重な勉強をすることが出来ました。

普段は会うことの出来ない他県の学校の皆さんと合同で演奏出来たことは、本当に新鮮な経験でした。

初日の午後から、全国大会でも素晴らしい成績を残している常総学院高等学校を中心とした東 関東合同バンドの練習が始まりました。まず、1人1人のレベルの高さに驚きました。演奏技術だ けでなく、音楽に対する真剣で強い気持ちも感じました。限られた練習時間でしたが、本図先生の 真剣なご指導のもと、合同バンドの皆が「良い演奏をしたい!」という気持ちで1つになっていま した。充実した練習の後、宿泊先では合同バンドの皆さんと過ごす時間がありました。今日初めて 会ったとは思えないほど、話が弾み、やっぱり同じ高校生なんだいう親しみの気持ちが増しました。 最初は不安もあり緊張していましたが、皆明るく楽しい方ばかりで、すぐに良い仲間になれました。 演奏会が無事終了し帰る時間になった時、合同バンドの皆さんと別れることにとても寂しさを感 じました。

今回の講習会で過ごした2日間の全てが充実していて貴重な体験でした。このような講習会を 開催して頂いた関係者の皆様に大変感謝いたします。そして私は、部活を引退したあとも、栃木県 の吹奏楽部の発展と向上を応援していきたいです。本当にありがとうございました。

「平成24年度東関東高等学校選抜バンドに参加して」

栃木県立真岡女子高等学校 3年 湧井 綾香

私は、6月9・10日にひたちなか市文化会館で行われた、東関東選抜吹奏楽大会・バンドセッションに選抜バンドのメンバーとして参加しました。

参加者は、茨城・千葉・神奈川・栃木から選抜されます。初めて顔を合わせたメンバーといつもと違う環境の中での練習は不安でした。しかし、他のメンバーと自分の学校の事や部活の話をしながら、次第に打ち解けることができ、当日は、前日の練習より更にレベルアップした演奏をすることができました。

2日間という短い期間でしたが、他校から集まったレベルの高いメンバーと一緒に演奏できた ことは、とても刺激になりました。先生のアドバイスに対してすぐに反応することや、いつも大き な返事をすることなどを学び、学校に帰ってからの練習に活かすことができ、とても良い経験にな りました。

このような機会をいただけたことに感謝しています。来年もぜひたくさんの人に参加してほしいと思います。





高校野球に華を添える応援演奏について

「甲子園の応援に行って」

作新学院高等学校吹奏楽部 副部長・トレーナー 3年 金子 早織私はこの夏、第94回全国高等学校野球選手権大会の応援で、作新学院吹奏楽部として甲子園に行きました。甲子園球場で応援するのは昨年の夏・この春に続いて3度目ですが、球場のもの凄い熱気と沢山の観衆には何度行っても圧倒されます。また、大阪の夏はことのほか暑く、スタンドにいるだけで大玉の汗が流れ落ちます。攻撃の時だけブラスバンドの応援が許されますが、立奏での応援なので、応援で立っている間に真夏の熱い太陽の光線を浴びたアルプススタンドの座席はとても熱く、座るときにはタオルを置かねばなりません。直には座れないほどで、目玉焼きができそうなくらい熱くて驚きました。そこで、暑さ対策のため、冷えピタを首の回りに貼り、楽器保護するために特製タオルでクラリネットを覆い、スポーツドリンクや氷を充分用意し、内輪であおいで暑さをしのぎました。トイレに行くときには改装工事の終わったスタンド下の空調の風に当たり涼をとります(これはあまり大きい声では言えないのですが)。

今回の応援は第一試合ばかりにあたってしまい、試合開始8時に合わせて行動しなければなり

ませんでした。朝3時に起床し、4時には宿舎を出発しなければならず、体力的にきつかったです。ただ、私たちブラスバンドは2km近くある駐車場から甲子園までを歩くことなく、5号スパンという甲子園球場のすぐ脇まで行き、楽器を積みおろすことが出来るので、一般の生徒よりは楽でした。甲子園球場周辺には記念のグッズを売るショップがあり、私も試合後に記念に作新学院高校の名のはいったグッズをいくつかおみやげに購入しました。球場には歴代優勝校のプレートがあり、1962年に春夏連覇した時のものを眺める事も出来ました。

さて、応援ですが、とにかく甲子園球場は栃木県にある球場とは比べものにならないくらい広く、相手側のアルプススタンドまでの距離も遠く、こちらの音が届いているのか不安でしたが、広いからといって乱暴にならないように気をつけました。また、並び方やベルの向きを工夫し、演奏のまとまりにかけることなく、ボリューム感のある質の高い演奏を心掛けました。東関東吹奏楽コンクールを控えていることもあり、コンクールに生かせるような演奏をしようと考えました。その結果、選手たちにも勇気を与えられ、まずまず良い演奏が出来たのではないかと思います。

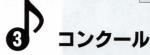
試合ですが、1回戦では4点も先行されてしまい、応援している私たちも焦ってしまいましたが、 選手達が一生懸命プレーする姿を見て、私達も選手の力になれるよう精一杯演奏し、大声をあげて 応援しました。その結果、逆転し勝利を収めることができました。

2回戦では選手達の活躍が素晴らしく、攻撃の時間が長く、体調不良者も出てしまい大変でしたが、19点もの大量得点を奪い勝つことができ本当に嬉しかったです。

3回戦からは私達の東関東吹奏楽コンクールに向けての練習のため、私を含めた半分の部員は栃木に残り、それ以外の部員で応援に行きました。私達は練習の合間を縫ってワンセグの前で応援しました。部員も選手もとても頑張っていたので、勝つことだけを祈っていました。接戦の末の勝利には本当にほっとしました。しかし4回戦は残念ながら負けてしまったのですが、最後まで諦めず戦っている姿はかっこよく感動しました。

私はこの経験を通じ、最後まで諦めないことの大切さや仲間を信じることの大切さを学びました。吹奏楽もチームプレーという点においては野球と共通するので、そこから得たものを活かし、私も最後まで全力で吹奏楽活動をしていきたいです。





「東関東吹奏楽コンクールに参加させていただいて」

県立大田原高等学校 吹奏楽部顧問 遠藤佐知子 横須賀芸術劇場。目の前にその建物が現れた時の高揚感は今でも忘れない。もう一つ忘れられな いのは、帰りのバスから見た、夢の中かと見まごうばかりの横浜の夜景…。

10月1日付け下野新聞に「22年越しの悲願 東関東で『金』」などと大袈裟に書かれてしまった。が、東関東を真剣に目指したのはたぶん、去年負けた(選考会で落ちた)とき。しかし負けてからは、毎日のように東関東の事を考えていた。本当に。絶対に出る!と。22年間で時たま妄想する東関東ではなく、一年間毎日考えていた東関東。その間、感情曲線は様々な分野で(例えば「諦め度」「前向き度」「怒り度」「期待度」「手応え度」等等)激しい上下運動を起こしもした。しかしその中で、一番私を奮い立たせたのは、実は一枚の紙切れだった。そこに書かれていた一文「・・・東関東吹奏楽コンクールへ栃木県代表として推薦します。・・・」。連盟から校長に宛てられた推薦書の文面にあったこの「代表」という二文字に私の目は釘付けになり、新しい何かに突き動かされる思いがした。でたくてもでられない団体の分まですべて背負ってのものなのだ、ということをこの二文字は教えてくれていた。残りの期間をどう過ごすべきかという示唆を与えてくれていた。「東関東に行く」というとりあえずの目標を達成した自分達に、新たなる目標を与え奮起させてくれたのだ。その後の40日間は本当に楽しかった。迷いの無い部員達全員が、ぶっといベクトルを共有でき、それは不安や失敗や焦燥などすべての負の要素を銷却するほどのエネルギーとなっていた。

今回の結果を部長は「総合力」と表現する。言い得て妙である。自主学習をしている生徒らのいる教室のすぐ両隣でいつも練習をしている。でも大高の仲間達は文句を言わない。うるさくてすみませんと先生方に謝っても「楽器の音がうるさくて勉強できなくなるようなレベルではだめですから。」と言ってくれる。そんな暖かい「大高」に包まれて私たちは日々練習をさせて頂いている。身内がいるわけでもないのに定演などにいつも足を運んで下さる地域の方々の声援も心強い。そして生徒達の艱難辛苦を真正面から受け止めてくれているのはご家族と思う。その他、直接演奏でなくても拘わって下さっている全ての方々に感謝でいっぱいである。

最後に、私が誇りに思っていることを書いて終わりたい。本校は10月18日に110周年の創立記念式典を行い、吹奏楽部も記念演奏会をさせていただいた。周りの生徒達が必死に受験勉強を進めている中、決して弱音を吐かず、愚痴一つこぼさず、その日まで一人も引退せず、前向きに前向きに前向きに毎日活動を続けてくれた3年生16名。本当に自慢できる生徒達だった。そんな部員達がいたことを報告させていただき、駄文の締めくくりとさせていただきたい。最後までお読み下さり有り難うございました。

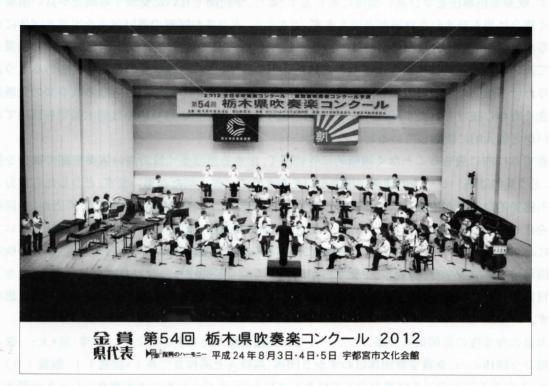


「平成24年度 栃木県吹奏楽コンクール」

栃木県立石橋高等学校 部長 3年 武石尚子

私達吹奏楽部は、新しい顧問の岩原先生と、21人の新入部員を迎え、68人の大家族となり4月から新体制で部活動をスタートさせました。私達が今年のコンクールで演奏した課題曲と自由曲は、どちらも私達にとって越えなければならない壁が多くある曲でした。

また、毎日7時間授業で放課後に模試が行われることもあり、部活動の時間をなかなか確保することができませんでした。学年や立場などの状況の変化もあり、誰もが悩み、部活を楽しめない日もありました。しかし岩原先生は、いつも熱心にご指導してくださり、部員を温かく見守ってくださいました。コンクールが近づくにつれ、仲間との信頼も生まれ、新しい世代でつくる石高サウンドも力強いものとなりました。そして、コンクール当日は、68人の部員、顧問の岩原先生、阿部先生と力を合わせ、ホールいっぱいに石高サウンドを届けました。その結果、金賞を受賞することができ、東関東吹奏楽コンクールという最高の舞台で演奏することができました。今年、吹奏楽を通して学んだ仲間の大切さ、自分の行動に対する責任、そして音楽ができる幸せを忘れずに、後輩達には、来年の夏に向けて頑張っていってほしいです。



※平成24年9月24日付けの「下野新聞」に今年度の第18回東関東吹奏楽コンクールの様子が 記事になりました。地元紙に掲載されたことはすばらしいことです。

栃木県吹奏楽連盟副理事長 広報部長

三橋 英之(作新学院高校)

この夏は「他校のバンドの演奏を見聞きすることの大切さ」について再認識した夏でした。

今年は高校Aの部で関西吹奏楽コンクール(滋賀県・京都府・奈良県・和歌山県・大阪府・兵庫県の代表22団体)及び東海吹奏楽コンクール(長野県・静岡県・三重県・愛知県・岐阜県の代表20団体)を聞く機会に恵まれました。私の出場した東関東吹奏楽コンクールとあわせ、50団体以上の演奏を聞きました。他支部のコンクールと聞き比べてはっきりと言えることは、全国の中で東関東のレベルは東京や西関東とともに最も高いということです。

東関東支部・西関東支部・東京支部の関東圏は日本の人口の多くが居住し、吹奏楽の団体数も多いところです。交通の便も良いことから、大小様々なクリニックが開催され、参加することが容易です。吹奏楽指導法を学び易い環境にあります。また、学校間で互いに交流する機会や良い演奏を聞く機会に最も恵まれた地域だと言えます。ですから、どうすれば質の高い演奏を出来る団体に育てるかを学ぶには十分な環境が整っているとも言えます。良い意味で知らぬ間に競い合い、結果として高いレベルを維持するようになったのだと思います。さらに理事長の巻頭言にもあるようにとりわけ千葉県の柏市周辺での先進的な小・中・高の連携した取り組みはさらなる吹奏楽の発展に大きく寄与し続けています。難しいことと思いますが、この柏市の取り組みは栃木県でも採用できないかと個人的に模索しているところです。

要するに内に籠もることなく積極的に外に出て、出来るだけ多く質の高い演奏を聞く機会を持ち、どうすれば高いレベルの演奏が出来るかを考えることが大切だと思います。どうしたら自分たちも感動的な演奏が出来るのかを探るために良い演奏をしている団体を見学に行くとか、合同練習をさせてもらう事も考えなくてはなりません。良い刺激を受けることで生徒たちは好ましい方向に必ず変わっていくことでしょう。同時に指導者も生徒に発破をかけるだけでなく、正しい吹奏楽指導法を本気で学び、研究し、生徒たちが向上していく手助けをしなければなりません。先生方は日常的に忙しい日々が続き、余裕がないかもしれませんが、生徒たちはそれを望んでいると思います。

本県の今年度の東関東吹奏楽コンクールでの成績は散々たるものでした。小・中・高・大・一般の出場29団体の内、金賞受賞団体はわずか2団体(高校Aと高校Bで各1・銀賞11・銅賞16)でした。もちろんコンクールは賞が全てではありませんが、そろそろ本県の吹奏楽のレベルが関東のどの県よりも劣っているという現実を真剣に受け止めなければなりません。また、本気でレベル向上のために皆が手に手を取り合って連携し、他県に負けない演奏を出来るバンドの育成を考えていかねばならない時期が来ているのではないかと思います。

今回は「他校のバンドの演奏を見聞きすることの大切さ」とそれを踏まえ、今後のスクールバンド同士の「連携」の大切さについて勝手ですが申し述べました。指導者の皆さんがんばりましょう。

また、広報誌に対する要望・意見・感想などお待ちしています。是非お寄せください。